

茨城経協

Ibaraki Employers' Association

<http://www.ikk.or.jp> Email info@ikk.or.jp

一般社団法人茨城県経営者協会



茨城経協



CONTENTS

- 01 TOPINTERVIEW Vol. 39
「女性の視点で酒造りにまい進 ～社是“四海皆兄弟”を实践～」
愛友酒造株式会社 代表取締役（7代目当主） 兼平紀子氏
- 05 第3回理事会開催
「第7次中期運営要綱」がスタートします
- 07 委員会報告
地域関係／環境／労働企画／科学技術
- 09 支部だより
4支部共催／県北／常陸・那珂／水戸／土浦・石岡・つくば／取手・龍ヶ崎／鹿行
- 12 茨城大学・寄付講座
「今、皆さんに伝えたいこと」
水戸ヤクルト販売株式会社 代表取締役社長 内藤学氏
- 13 新入会員紹介
新入局員紹介
- 15 「会員増強運動2014」を展開します
- 17 【新連載】数に込められた思いと意味①<葛田一雄>
「思い遣りと美しさ」
- 19 県内NPO情報Vol. 162<横田能洋>
「地域連携で課題解決する仕組みづくり
～円卓会議からフューチャーセンターへ～」
- 20 セミナー・事業等のご案内

愛友酒造株式会社
代表取締役(7代目当主)

兼平 紀子氏

Vol.
39

会社概要

所在地／潮来市辻205

TEL／0299-62-2234

業種／清酒製造業

従業員／18名

HP／<http://www.aiyu-sake.jp/>



愛友酒造 7代目当主 兼平紀子氏

女性の視点で酒造りにまい進 ～社は“四海皆兄弟”を実践～

聞き手：創業が1804年、江戸時代の文化元年と伺いました。

兼平社長：お陰様で創業から今年で210年目を迎えます。もともとは“^{こうとも}糺友”の屋号で、地元潮来で糺屋を営んでおりました。それから糺づくりで培った技術をもとに、初代当主である兼平^{つねしち}常七によって愛友酒造が

創業されました。

聞き手：兼平社長が7代目の当主となるのですね。

兼平社長：酒造りに関して右も左も分からない私でしたが、6代目当主だった主人をはやくに亡くしまして、病床の主人より「家業をよろしく頼む」と言われ、それまで造り酒屋の6代目

として精一杯取り組んできた主人の強い思いが伝わり、7代目として主人の遺志を継ぐことを決意しました。

聞き手：7代目として、また初めての女性当主として酒造りに取り組まれ、色々な御苦労があったのではないのでしょうか？

兼平社長：酒造りに関して言えば、今でこそ杜氏としてまた経営者として女性が活躍されていますが、以前は女性が酒造りに携わることを良しとしない傾向があったことは確かです。それでも醸造技術や販売から経理まで、一から勉強をしまして、社員をはじめ多くの方々にサポートいただきながら3年ほどかかりましたでしょうか、全体を把握できるようになりました。



すずりのみや
硯宮神社傍に佇む歴史を刻んだ酒蔵

聞き手:社名である“愛友”には、どのような思いが込められているのでしょうか？

兼平社長:“友を愛し相睦み肝胆相照らす”と記しまして、友と皆が楽しく酒を飲み交わすという創業者の意志で社是でもある「四海皆兄弟」松陰の精神のもと、広く多くの人々に愛される酒造りを目指すべく名づけられまして、今日まで地元の人々に支えられ育まれて参りました。

酒造りの水には、地元の大生神社の神泉である水脈を活かしています。この水脈は酒造りに最適なミネラル分を含むとともに、古くは水郷潮来の地名にあるとおり、人々の生活を支え、江戸時代には東北地方と江戸の水運の要衝として栄えて参りました。

日本酒を取りまく環境の変化 ～女性ならではの視点と アイデアを実践～

聞き手:7代目当主を引き継ぎ、時代の変化を捉えながら、兼平社長ご自身の様々なアイデアや工夫を経営で実践されてこられましたね。

兼平社長:私が継いだ頃は“特級酒”“1級&2級酒”で分類されていた時代でしたが、1992年になるとそれまでの酒級が廃止され、新たに“特定名称酒(吟醸・純米・本醸造)”という分類

が生まれました。容器においても、従来は一升瓶が主流でしたが、180mlや720mlのサイズで販売が開始されるなど、日本酒を取りまく環境は変化していきました。

また、潮来まで東関東自動車道が開通したことで、我々を取りまく流通経路もだいぶ様変わりしました。環境の変化に合わせて、当社も“純米”“吟醸・大吟醸”“生酒”などお客様の嗜好に合わせた商品開発に取り組みました。

地元である潮来では、5月末～6月にかけて毎年“潮来あやめ祭り”が開催されまして、80万人を超える方々が内外より御出でになるなど、大変な賑わいをみせます。我々も地元唯一の酒蔵として、潮来を訪れるお客様に対して何かお手伝いができないかと考えまして、平成8年に「観光酒蔵」として酒蔵を開放致しました。従来は、部外者が酒蔵へ立ち入ることは、あまり良しとされてはおりませんでした。地元への恩返しになればと思い、是非やってみよう!とチャレンジしました。もちろん酒蔵の開放につきましては社内でも賛否がありましたが、少々無理を申しまして賛同いただきました(笑)。

県内外から潮来へ訪れる皆様に、酒造りの工程や昔ながらの白壁づくりの酒蔵をみていた

だきながら、そして潮来の歴史や日本文化の素晴らしさを知っていただく機会になればと思い、今日まで続けて参りました。今では潮来の観光スポットとしてご活用いただきまして、潮来のPRに、また茨城には多くの酒蔵がございますが、茨城は美味しいお酒ができる産地であることもPRできればと願っております。

また茨城県の工業技術センターのサポートを得まして、あやめの花より抽出した「あやめ酵母」を利用した商品(商品名:あやめ酵母使用本醸造「水郷潮来 あやめまつり」)の開発にも取り組みました。この商品は、売上げの一部を潮来のあやめの育成に役立てていただいております。

そのほか酒蔵の敷地内にある梅の実を使いまして、プライベートで梅酒や梅干しを作っ



愛友シリーズの最高峰「愛友大吟醸」。あやめのイラストが印象的

いたのですが、ふと“梅を日本酒で漬けたらどんな味になるだろう?”と思いチャレンジしたところ、ホワイトリカー（焼酎）に漬けるよりも香りが良く、味もまろやかで美味しくできまして、味見をしていただいたお客様からも「こんなに美味しい梅酒が出来るなら商品化したら?」と逆に背中を押されまして、こちらも工業技術センターと共同で研究開発を致しました。お陰様で現在では当社の人気商品(商品名:リキュール「酒蔵の梅酒」)となっております。

聞き手: 兼平社長の着眼点や発想が商品開発へと繋がっていますね。

兼平社長: もちろん私だけの力ではありません。社員みんなが一致団結して力を合わせたからこそ、アイデアが実現できた実感しております。社員にはいつも感謝していますし、頼もしいかぎりです。

聞き手: 愛友酒造さんの商品は、お酒の瓶やロゴなどデザインが大変洒落てますよね。

兼平社長: 商品のラベルやそれに記載される文字などのデザインも私なりに考えながら作って参りました。

聞き手: ラベルのデザインも兼平社長自ら取り組まれているのですか?

兼平社長: 嫌いじゃないので(笑)。商品に「嫁入り舟」とい

う本醸造酒がありますが、これはご承知のとおり、昭和30年前半まで潮来では水路が生活経路となり、嫁入りの際に、花嫁や嫁入り道具等を運搬するときに舟が使われていた慣習をモチーフにしています。現在もあやめ祭りの際に、挙式をあげられるカップルもいらっしゃいまして、花嫁が舟に乗ってお嫁に行く様子をテレビ等でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。

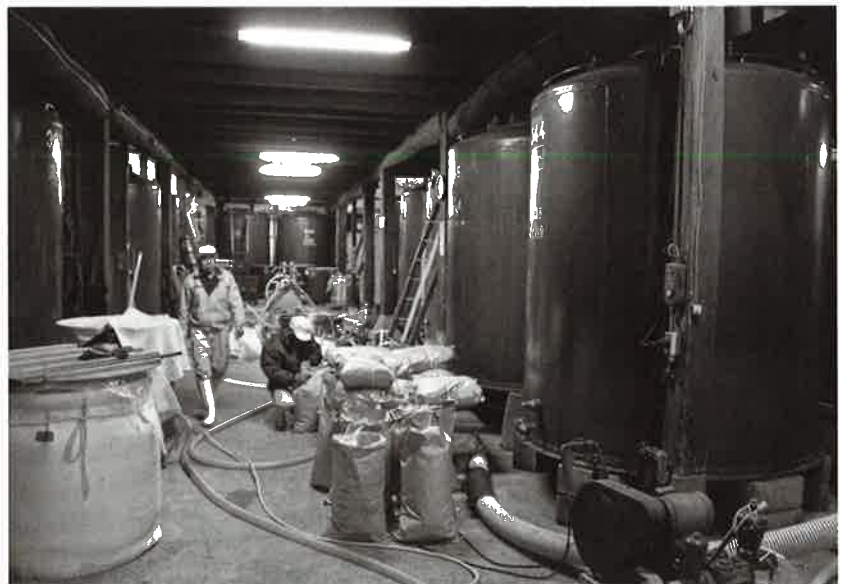
お客様からも、当社商品の瓶やラベルのデザインをみて“これは女性が考案されたものですよね”と説明する前から感じていただく方も多くいらっしゃいます。“女性ならではの発想ですね!男性では創れないですよ!”とお褒めいただいた時は大変嬉しく感じました。

また主人の時代の愛友酒造と、私が継いだ後の愛友酒造と

では“印象が違う”とよく言われます。税理士さんには“兼平社長は限界を設けない人ですね(笑)、パイオニアですね(笑)”と言われたこともありました。私なりに伝統を重んじつつも、これまで取り組まなかったことにチャレンジしてきたことで、私なりの愛友カラーが打ち出せてこれたのかな、と感慨深く感じております。

聞き手: 兼平社長ご自身、これまで新たな視点で酒造りにチャレンジされてこられたのですが、今後はどのような展望や夢をお持ちでしょうか?

兼平社長: 先程も少しふれましたが、茨城には酒蔵も数多く、美味しいお酒が沢山ありますが“茨城で日本酒をつくっているの?”と仰る方もまだまだいらっしゃいます。茨城と言えば“納豆”や“干



一般開放されている酒蔵の様相

し芋”をイメージされる方が多いそうですね。私は“茨城のお酒の美味しさを多くの方々に知って貰いたい!”と常々感じておりまして、最近では都心部の大手百貨店の贈り物カタログに商品を掲載いただきましたが、幅広い層の多くの皆様に知っていただけるようアイデアを捻りだしながら、これからも努力して参りたいと思います。

また、お客様の趣向や変化もしっかりと捉えることも忘れてはいけません。去年は“和食”がユネスコ無形文化遺産の認定を受けました。国外でも日本文化への関心が高まりをみせています。和食文化と共に発展してきたのが日本酒ですし、世界中の人々に知っていただけるよう精一杯PRに努めて参りたいと思います。日本酒の発酵方法は「並行複発酵」と呼ばれ、繊細で微妙な味わいが醸し出されます。杜氏が、日々微妙に変化するもろみの状況を見ながら、精魂込めることで最良の味のお酒が造られます。ですから日本酒の手間をかけた複雑な製法やきめの細やかな味を知っていただくことで、逆に日本酒を足がかりに日本文化への関心を深めていただけるようになればとも思っています。

聞き手：海外への進出はされておられるのでしょうか？

兼平社長：以前、アメリカを訪問する機会がありまして、その当時から現地では和食がヘルシーで人気を集めておりました。渡米をきっかけに、現在は日本食レストランを中心に純米吟醸のお酒を輸出しておりまして、大変好評いただいております。現在はアメリカ中心の輸出ではありませんが、ゆくゆくはアジアや欧州など新たな市場の開拓にもチャレンジしたいと考えております。

聞き手：7代目当主として愛友酒造を守ってこられました。思い出深いエピソードなどあればご紹介下さい。

兼平社長：平成17年に潮来の水郷の森で開催された「植樹祭」に天皇皇后両陛下が御出でになられたレセプションにて、当社の「愛友大吟醸」が乾杯のお酒として採用いただきましたことは、私の生涯忘れ得ぬ出来事でした。

また、地元の古老の方から「私たちは若い頃から、愛友さんのお酒で育てられた」と仰っていただいた方がおりまして、その言葉を私は誇りに思っています。社是「四海皆兄弟」にあるとおり“互いに心を開いて酒を酌みかわせば、世界の人々は、皆、兄弟のように

睦みあえる”を実践してこれたのかな、と自負しております。地域の皆様に愛される酒蔵として、これからも頑張っていきたいと思います。

“本気で取り組む事で道は開ける”

兼平社長：主人を亡くし、当主を継ぐ決意をしてから私を取りまく世界は一変しました。振り返れば、これまで無我夢中で駆けぬけてきた気がします。しっかりと家業を守り続けていかなければならないとの強い決意のもと、そして多くの方々に支えられてきたお陰様で、これまでやってこれたと実感しています。

また現在、娘が家業を手伝ってくれていますので、新たな愛友酒造をつくりあげて貰いたいと願っております。

最後に私の好きなことばに、信州上田市安楽護聖禅寺の住職が記した「本気」という文がありますのでご紹介させていただきます。

「本気ですれば大抵のことができる。本気ですれば何でも面白い。本気でしていると誰かが助けてくれる」

聞き手：貴重なお話を御聞かせいただき、有難うございました。

聞き手は事務局（澤畑 英史）

第7次中期運営要綱案、平成26年度活動計画・予算案 定時総会提案の理事・監事候補者(案)を承認

当協会は、3月14日(金)、茨城県産業会館において、平成25年度第3回理事会を開催した。

会議には理事、監事、参与45名が出席した。



冒頭、鬼澤邦夫会長が挨拶に立ち「経済情勢は、日銀によると『持ち直しの動きが続いている』と景気回復に向かっているとの発表があったが、県内企業の実態を見ると斑模様で難しい状況が続いている。本日は、協会の中期計画、平成26年度の事業活動案と予算案、役員選任等をお諮りしたい。忌憚のないご意見をいただきたい」と述べた。

続いて、①会長および専務理事の職務遂行状況と平成25年度事業活動報告及び同収支決算(見込)、②新入会員の入会の承認、③第7次中期運営要綱案、④平成25年度事業活動計画案及び同収支予算案が承認された。(活動方針・重点事項は下記参照)特に、活動計画案のなかでは、第7次中期運営要綱に沿って実施する会員増強活動の詳細案が事務局より説明があり、理事・参与・各支部役員・会員等組織をあげての活動を実施することとなった。

次に平成26年度定時総会にて決議・選任いただく理事、監事候補者として次の者を報告し、満

場一致で承認された。(敬称略)

<理事> 鬼澤邦夫(常陽銀行)、小濱裕正(カスミ)、佐藤修二(日立ライフ)、高橋日出男(協立製作所)、木村和弘(日鉄住金鋳化)、澤畑慎志(事務局)、中田弘章(JX日鋳日石金属)、館岡司(日立製作所)、柳生修(コロナ電気)、幡谷史朗(茨城トヨタ自動車)、岡野勇次(ケーズホールディングス)、清水健一郎(N T T東日本)、西村寛(水戸京成百貨店)、木村興三(筑波銀行)、徳川義和(日立建機)、関正樹(関彰商事)、坂井雅紀(キヤノンエコロジーインダストリー)、波床尚規(新日鐵住金)

<監事> 小田部卓(茨城新聞社)、塙由博(水戸信用金庫)、横山哲郎(横山会計事務所)

また、定時総会後の理事会に提案する顧問候補者、参与候補者(略)を報告し、承認された。(敬称略)

<顧問> 河原雄図、川又諭、幡谷浩史、野口芳男(以上4名 元副会長)、清水賢一(専務理事)

議事終了後、日本銀行水戸事務所長の尾家啓之氏を招き「最近の金融経済概況」と題した講演を伺った。

平成26年度の活動方針(案)

平成26年度は、第7次中期運営要綱(平成26年度～28年度の中期計画)に掲げた『会員・地域から頼りにされる茨城経協へと進化する』ことをめざし、①情報収集・情報発信の強化、②会員交流機会の拡充、③研修・セミナー事業のさらなる内容充実、④地域社会への貢献活動の強化、⑤政策提言力の向上の5つの重点に

取り組んでまいります。

会員の皆様の課題解決、経営力向上を支援し、企業活力の高揚に取組み、地域経済・地域社会の活性化に貢献してまいります。また、業種や地域によっては、未だ東日本大震災等からの復興が道半ばであることから、引き続き、関係機関との連携協力に努め、早期復興に役割を果たしてまいります。

【重点事業】

1. 会員の経営力向上のための情報収集・情報発信の強化
 - (1) 会員の経営に役立つ情報収集・発信
 - (2) 人事・労務・人材育成、人材確保分野の情報収集・発信
 - (3) 人事労務および環境経営等の経営労務相談活動の充実
2. 会員相互のネットワークづくりのための交流機会の拡充
 - (1) 広域的(全県および他県経協会員等)な経営者間交流の機会の拡充
 - (2) 会員企業の経営力・技術力向上とビジネス交流の機会の提供・支援
 - (3) 多様な交流機会の拡充(青年経営研究会、女性経営幹部等)
3. 会員のニーズを踏まえた研修・セミナー事業の充実
 - (1) 経営革新を推進する業種別、階層別研修・セミナーの充実
 - (2) 先進的経営、環境経営、人材育成の事例紹介・勉強会の開催
 - (3) 会員企業の研修等のサポート体制の充実

4. 「豊かな茨城づくり」のための社会貢献活動の強化
- (1) 「安全安心なまちづくり運動」の継続
 - (2) 次世代を担う若者の育成のための「県内大学への寄付講座」の継続

- (3) 新たな地域貢献活動の新設を検討
5. 地域社会発展のための政策提言力の向上
- (1) 会員ニーズ把握、政策提言・要望活動とその実現
 - (2) 経団連、茨城産業会議を

通じた政策提言・要望活動

(3) 地域社会への情報発信および連携強化(行政や関係機関との懇談等)

『第7次中期運営要綱』がスタートします

このたび、地域経済社会や企業経営を取り巻く環境変化ならびに会員の皆様からのご期待・ご要望の声を踏まえ、平成26～28年度を計画期間とする第7次中期運営要綱を策定いたしました。

第7次中期運営要綱におきましては、『会員・地域から“頼りにされる”茨城経協へと進化する』を目指す姿に掲げ、会員の皆様の経営力向上ならびに地域経済・地域社会の発展に貢献すべく、「情報収集・情報発信の強化」、「会員交流機会の拡充」、「研修・セミナー事業のさらなる内容充実」、「地域社会への貢献活動の強化」、「政策提言力の向上」に重点的に取り組んでまいります。

今後とも、会員・地域の皆さまのご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいります。

第7次中期運営要綱（平成26～28年度）の概要

《茨城経協の目指す姿》

『会員・地域から“頼りにされる”茨城経協へと進化する』

《5つの重点取り組み》

【会員のために】

① 情報収集・情報発信の強化

～会員に対する情報発信強化に向けた取り組み～

- ・会員の経営の役に立つ情報の収集・発信の強化
- ・「人事・労務および人材育成」分野の情報の収集・発信の強化
- ・会員ニーズの把握と必要な情報提供の強化

～茨城経協の認知度向上に向けた取り組み～

- ・地域社会への情報発信の強化
- ・会員の参加意欲高揚に向けた情報発信の強化

② 会員交流機会の拡充（質量両面の充実）

- ・全県的な会員交流機会の拡充
- ・他県経協会員との広域的な経営者交流の促進
- ・会員のビジネスへの貢献拡大
- ・多様な交流機会の拡充

③ 研修・セミナー事業のさらなる内容充実

- ・会員からのニーズが高い「業種別」研修や時宜を捉えたセミナー等の企画
- ・階層別研修の“マンネリ化”防止および“スクラップ&ビルド”による内容充実

【地域のために】

④ 地域社会への貢献活動の強化

- ・「安全安心なまちづくり運動」の継続
- ・県内3大学への寄附講座の継続
- ・新たな地域貢献活動の新設検討

⑤ 政策提言力の向上

- ・会員からの要望の収集強化、常設委員会との連携強化
- ・茨城産業会議や日本経団連を通じた政策提言要望活動

※詳細につきましては、同封いたしました別冊「第7次中期運営要綱」をご参照下さい。

地域関係委員会

次年度活動について協議/他セクターとの連携でフォーラムを開催

地域関係委員会(委員長 清水健一郎氏 東日本電信電話(株)理事茨城支店長)は、3月19日(水)、茨城県産業会館会議室において、25年度2回目となる委員会を開催。13名の出席のもと、25年度事業活動の反省と次年度計画について協議された。

25年度は、企業リスクを体系的に整理し、対策を学ぶ研修や、事件・事故などトラブル発生時のマスコミ対応や記者会見の進め方など、緊急時の広報のあり方を学ぶ研修を開催し、概ね好評を得たため、次年度も継続して開催を検討していくこととなった。

また、平成26年～平成28年の3年間の経協活動指針となる“第7次中期運営要綱”において、「安全安心なまちづくり運動」に次ぐ新たな社会貢献活動の展開が求められているのを受け、26年度上期に会員企業へアンケートを実施しながら、活動内容を絞り込んでいく旨などが協議された。



また同委員会は、3月22日(土)にトモスミとビル4階において、茨城県経営者協会・大好き いばらき県民会議・茨城新聞社・連合茨城・生活協同組合パルシステム茨城・認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズの共催、また会場提供など水戸信用金庫の協力により、フォーラム「共創の種を膨らませよう～フューチャーセンターの可能性を探る～」を開催。企業・NPO・行政など多様なセクターから60名余りの方々が参加した。

当日はワークショップスタイルで進められ、予め設けられた社会課題をテーマに、解決に向け活発な議論が行われた。テーマは下記のとおり。

- ①障害者への理解を深め、活躍の場を創出
- ②フェアトレードによる販路を拡大し、買物で社会貢献
- ③遊休農地を活用し、ユニバーサル農業を推進
- ④子どもの学びをサポート、公平な教育機会提供に寄与
- ⑤学校教育&ESDを実践するため、家庭廃油を活用

また協議後にはゲスト講演も設けられ、元高校教諭で、現在は柏市議会議員を務める傍ら“まちなかカレッジ”など、学校や行政・企業など連携を深めながら地域教育

の活性化にチャレンジしている山下洋輔氏をお招きし講演頂いた。

山下氏は「地域課題の解決に向け、同じ問題意識をもつ仲間が立場は違えども協力しながら活動を展開する上で1つアドバイスを。スタート時は少人数で意識も共有できているが、賛同者が増えその“輪”が広がりをみせると、次第に目指していた活動と方向性が異なり收拾がつかなくなり頓挫するケースがでてきます。悪気もなく立場も違うのでやむを得ないと思いますが、様々な経験を経てやはり大切だと思うのが“なぜこの活動に取り組んだのか”という最初の動機部分です。この活動理念にも通じる部分をしっかり押さえ、賛同頂ける方々に理解を得ながら進めていくことが大切なのです。本日協議された内容を今後発展させていく上で、是非とも頭の片隅に置いていただきたい」と語られた。

参加者からは「多業種の方々と話し合うことで、全く異なる視点で意見を聴けたのが良かった。実際にプロジェクトが動きだしたら、私も参加したい」、「立場・年齢・役職など様々な方々と関われる機会を得たことがとても有意義だった。今後は、実践に向け行動したいと思います」といった感想が寄せられていた。

環境先進企業見学会

関東エコリサイクル、小松製作所小山工場を見学

環境委員会(委員長 坂井雅紀氏 キヤノンエコロジーインダストリー(株)代表取締役社長)、水戸地区支部(支部長 西村寛氏(株)水戸京成百貨店 代表取締役社長)は、3月18日(火)は、例年恒例となる環境先進企業見学会を開催し、21社34名が参加した。

最初に訪れた「(株)関東エコリサイクル」では、はじめに、会社

概要と環境の取組みなどについて説明いただいた後、冷蔵庫・エアコン・洗濯機・テレビ等の前処理工程から破碎、フロン回収、排出物の保管をされている模様を見学した。同社は、日立・三菱・ソニー・シャープ・富士通ゼネラルの出資により設立され、家電リサイクル法のもと、栃木、群馬、福島、茨城、埼玉、長野、新潟の7県より対象

製品及び産業廃棄物の再生処理を行っている。また、生産工場と同じ敷地内(日立アプライアンス



の事業所内)にあることで、リサイクルしやすい製品開発に役立っていると同時に、クローズドリサイクル部品も生産工場と一緒に開発しており、そのような特長を活かした取組みを紹介いただいた。

続いて訪れた「(株)小松製作所小山工場」では、はじめに会社概要と環境の取組みなどについて説明いただいた後、生産工程をご案内いただいた。同社は、建設機械、鉱山機械等の心臓部であるディーゼルエンジン、筋肉となる油圧機器、そしてエンジン

のパワーをタイヤに伝えるアクスル(車軸)の研究開発から生産までを一貫して行っている。環境保全活動では、特にゼロ・エミッション活動を小松製作所の中で最初に取り組んだ工場であるとともに、その活動を近隣の工業団地の方々にも周知し共に取り組んできた。その他にも、地域の企業や行政への環境保全活動にも積極的に協力などをした結果、環境大臣表彰や経済産業大臣表彰などを受賞されている。

当日は、見学後に質疑応答の

時間を設けたところ、予定時間をオーバーする程の多数の質問が寄せられ、環境部門担当者から懇切丁寧な回答もいただいたため、環境に配慮した経営の推進やそれに付随する様々な取組みなど学び、見聞を広めることができた。



労働企画委員会

第4回若手の人事労務担当者のための勉強会を開催

労働企画委員会(委員長 館岡司氏 (株)日立製作所電力システム社日立事業所副所長)は3月19日(水)、(株)水戸京成百貨店において、第4回目となる若手人事労務担当者のための勉強会を開催した。

本会合は、昨年11月に全4回のスケジュールでスタートした勉強



会の最終回であり、これまで取り組んできたグループワークの成果発表が行われた。

メンバー28名が4グループに分かれ取り組んだグループワークでは、①メンタルヘルス不調の原因、②職場環境改善計画、③人事労務管理の基本的仕事と関係、④心の健康づくり計画と組織について、企業の業種、規模、地域の異なるメンバーが意見を持ち寄り、一つのモデルケースを作り上げた。

会合では、各グループの代表者の発表に続き、活発な質疑応答がなされた。



最後に、アドバイザーの安田尚道氏(常磐短期大学教授)が発表に対する講評と全4回のまとめを行った。

本年度全4回の会合で得られた知見は、レポートとしてとりまとめる予定となっている。

科学技術特別委員会

平成26年度の事業活動計画(素案)などについて協議検討

科学技術特別委員会(委員長 長澤克己氏 (株)日立製作所電力システム社 理事日立事業所所長)は、行政当局による施策説明および委員会を開催した。

行政当局の施策説明では、茨城県企画部理事兼科学技術振興監の増子氏より、「つくば国際戦略総合特区」の現況と、今年の10月に追加となった3つの新規プロジェクトなどを中心に説明をいただいた後、施策に対する意見交換会を実施した。

委員会では、平成25年度の活動実績報告および平成26年

度の事業活動計画(素案)などについて協議した。

26年度の具体的な事業活動としては、県内5金融機関との連携による「茨城ものづくり企業交流会」「ものづくり先進企業見学会」を開催するほか、新たな計画として「知的財産普及研修会」などを実施して行くこととなった。

知的財産普及研修会の開催の目的は、中小企業の知的財産に関する課題や悩みの多くである「知的財産の相談は、どこに行けばよいかわからない(特許庁調べ)」といった声が多いことから、知的財

産に関する情報を提供すること。また、知的財産権に関する基本的な知識や各種支援策などを習得するとともに、知的財産権を企業活動や経営戦略に効果的に活用し経営基盤の強化をねらうことを目的に、開催することを了承された。



【共催】 県北地区支部、日立地区支部、常陸・那珂地区支部、水戸地区支部

県北県央ブロック経営者懇談会を開催

県北地区支部(支部長 三浦利春氏 (株)茨城サービスエンジニアリング代表取締役社長)、日立地区支部(支部長 土屋静治氏 日立電鉄交通サービス(株)取締役社長)、常陸・那珂地区支部(支部長 柳生修氏 コロナ電気(株)代表取締役社長)、水戸地区支部(支部長 西村寛氏 (株)水戸京成百貨店代表取締役社長)は4支部共催で3月5日(水)、ホテルクリスタルパレスにおいて、県北県央ブロック経営者懇談会を開催した。出席者数は119名であった。

冒頭、主催者を代表し、柳生修常陸・那珂地区支部長が挨拶に立ち「本日の経営者懇談会は、水戸より北に位置する4つの支部を一

つのブロックとして、開催場所を持ち回りでローテーションしながら、支部の垣根を越え、広域的な企業間の交流を深めることを目的として開催させていただきます。地域や業種・規模が異なる会員企業の皆様にご参加頂きましたので、名刺交換や企業間の情報交換など、是非とも積極的な交流を行って頂ければ幸いです」と挨拶した。

続いて、鬼澤会長が「協会本部では、次の3年間の中期計画である『第7次中期運営要綱』の策定に向け、昨年、会員の皆様に意向調査へご協力頂きました。その設問の中に、交流事業に関する希望を何う項目があり、最も希望が多かったのが「全県的な異業種

交流」を望む回答でした。本日は、県北、県央の会員企業の交流会ですが、次年度は更に、ブロックを超えた『全県的』交流の機会をご提案させて頂きたいと考えております。4月から取組む中期運営要綱が『会員・地域から“頼りにされる”茨城経協へと進化』できるよう、事業展開をしていく所存でございます」と挨拶があった。

講演会では、(株)JR東日本テクノハートTESSEIおもてなし創造部長の矢部輝夫氏に「世界一の現場力はどう生まれたか～新幹線お掃除の天使たち、誕生の軌跡～」と題して講演頂いた。

講演終了後には、交流パーティを併設し交流を深めた。

県北地区支部

高萩市長懇談会を開催

県北地区支部(支部長 三浦利春氏(株)茨城サービスエンジニアリング代表取締役社長)は3月6日(木)、高萩市長懇談会を(株)常陽銀行高萩支店会議室において開催した。

開会にあたり三浦支部長が「小田木市長には3月3日に初登庁したばかりのご多用のなか昨年の県議時代に続き2年連続でお越しいただきありがとうございます。本日はこれからの市政運営等についてご講演をいただきます。県北地域の活性化の視点か

ら有意義な懇談会としたいので、会員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴したい」と挨拶した。

続いて、小田木真代高萩市長より「高萩市政の課題と抱負」と題してご講演いただいた。

小田木市長の講演では、“安全な街”、“安心な街”、“活力ある街”の3つを柱に、震災からの復興状況および小中学校の耐震化をはじめとした防災・減災対策、子育て環境の整備および医療・福祉の充実、定住人口・雇用の確保、



交流人口の拡大に精一杯取り組んでいく決意とその具体的施策についてご説明をいただいた。

意見交換では、新市庁舎の問題、原子力災害対策の問題、放射性廃棄物の処分場の問題などについて幅広い意見交換がなされた。

【共催】 常陸・那珂地区支部、水戸地区支部 人事労務担当者会議

人事労務セミナーを開催

常陸・那珂地区支部(支部長 柳生修氏 コロナ電気(株)代表取締役)と水戸地区人事労務担当者会議(代表幹事 川上康郎氏 茨城交通(株)執行役員総務部長)は共催により、3月17日(月)、茨城県産業会館大会議室にて「人事労務セミナー」を開催した。参加者数は76社90名。

テーマを「問題社員・ローパフォーマーへの対応と法律実務

～精神的不調、性格傾向に基づく上司・同僚とのトラブルにどう対処すべきか 指導では矯正できない他責型、思い込み型、正論型社員への対応～」と題し、講師には「使用者側の視点に立った指導で、非常に解りやすい」と参加者からの評価が高い丸尾法律事務所の丸尾拓養弁護士をお招きし、ご指導頂いた。

丸尾氏は「これまで管理者を

悩ませていた問題社員・ローパフォーマーへの対応が変わりつつあります。仕事ができないことよりも、人間関係や勤務態度が不良であることを直截突くようになり、結果としての問題行動や実力不発揮でなく、その理由として“精神的不調”や“性格傾向”などを問うケースが増えていきます。「自分は悪くない」「言われたことをやっている」など



と主張が繰り返され、職場が疲弊する傾向が増えており、このような組織不適合の要因を解決していくことが喫緊の課題です。

個々の事案に即した対応は求められますが、一般で言われる「教育」「指導」をしても解決できないケースもあるため、企業は事案を的確に把握し、解決に向けた対策を講じなくてはならないのです」と語られ、最近の判例を踏まえながら解説いただいた。

参加者からのアンケートでは「労働契約の基本に立ち返り、使用者と労働者の基本的な立ち位

置を整理いただき、それらを裏付けるトラブル事例を豊富にご提示いただいた。社に戻り、現在の課題を整理しながら、対応を検討していきたい」「実践的で実務に則した講義であり、当社の労働問題解決に大変役立った。丸尾弁護士の話は論理的で分かり易い。自身のこれまでの対応を振り返れば、恥ずかしくなる程になった」といった感想が寄せられた。

水戸地区支部

支部セミナーを開催

水戸地区支部(支部長 西村寛氏 (株)水戸京成百貨店代表取締役社長)は、3月6日(木)、水戸プラザホテル「グリーンルーム」にて支部セミナーを開催した。

セミナーは2部制で開催され、第1部では、(株)茨城放送代表取締役社長北島重司氏より「私が見てきた報道の裏側」と題して、朝日新聞在籍時の豊富な報道現場での実体験談、または、多くの人脈から得た報道されない裏話、日本のマスコミの特徴

などをご講演いただいた。講演の最後には、北島氏が気になる最近の話題として、H2ロケット打上げ、福島原発、STAP細胞の行方の3つに触れ、報道関係者の視点についてお話いただいた。参加者からのアンケートでは、「最後は繰り返し現場を見る事が大事であると再認識した。」「話の内容が実体験に基づいているので大変面白かった。」などの感想が寄せられた。

第2部では、(株)全銀電子債

権ネットワーク担当課長山口修氏より「初歩からわかる、でんさいネット」と題して、電子記録債権(でんさい)の仕組み、実務、現在の利用状況などをご講演いただいた。



水戸地区支部

平成25年度第4回幹事会を開催

水戸地区支部(支部長 西村寛氏 (株)水戸京成百貨店代表取締役社長)は、3月6日(木)、水戸プラザホテルにおいて平成25年度第4回幹事会を開催した。



本会では、西村支部長の挨拶後、今後の実施予定である「経営セミナー」、「環境先進企業見学会」について、参加状況などが報告された。また、次年度の事業計画の中で、行政懇談会、支部総会の講演会講師の選定について、参加者からは様々な意見がだされた。また、多数の講師候補者が提案され、事務局で集約し、次回役員幹事会で候補

者を再度協議することとなった。

また、年間スケジュールで、事業が集中する月がありスケジュールの平準化を図るべきである、との指摘がなされ、次回幹事会でその指摘をふまえ、年度計画の具現化を図ることとなった。最後に、事務局より、平成25年度の会員増強運動へのご協力のお礼とともに、平成26年度の増強活動への協力要請があり、承認された。

土浦・石岡・つくば地区支部

支部総会を開催

土浦・石岡・つくば地区支部(支部長 徳川義和氏 日立建機(株)執行役常務生産・調達本部長)は3月11日(火)、オークラフロンティアホテルつくばにおいて、平成25年度支部総会を開催した。

はじめに徳川支部長が「本年

度は会員のみなさまから多大なるご協力を得まして、125社にご入会頂きました。125社の内、29社が当地区支部にご所属頂きました。本日は、新入会員のみなさまに多数ご出席頂いており、この後、新入会員のみなさまをご紹介させていただきます。本

日現在、会員数は810社となりました。4月からの新年度は800社を超える会員のみなさまに満足頂ける活動を展開して行きたいと考えております。本日まで参加のみなさまにおかれましては、経営者協会において今後、取り組むべきテーマなどについて

て、忌憚のないご意見をお聞かせ頂きたい」と挨拶をされた。

引き続き、加藤事務局次長より経営者協会事業活動の概要について、支部担当事務局より支部活動について報告がなされた。

講演会では、当協会副会長であり(株)カスミの代表取締役会長の小濱裕正氏より「ローカルスーパーマーケットはソーシャルシフトにいかにか効果的に対処すべきか」をテーマにご講演を頂いた。

小濱氏は「社会が成熟する中、生活者が選んだのは安い買い物をするのではなく、生活を見つめ直し本当に必要なものを選ぶことであった。本当に必要な

ものとは、価値あるブランドを選択し、信頼できる家族や友人との幸せな時間を大切にすること。この消費トレンドの変化と呼応するようにソーシャルメディアが登場し、コミュニケーションや絆の広がりを加速させている。現代は生活者との信頼の絆が大切な『共感の時代』であり、品質や価格だけでは競争に勝ち残れず、企業には『ソーシャルシフト』による経営改革で永続的な企業体質を目指すことが求められる」と経営環境の変化と求められる企業の対応について述べられた。

講演終了後には、小濱会長の



講演を深めるため、参加者全員が参加し、グループディスカッションを行った。ディスカッションでは、講演内容を自社の経営にあてはめ、共感する点や改善すべき点などが活発に話し合われた。

最後に交流パーティにて懇親を深め会を閉じた。

取手・龍ヶ崎地区支部

「ミッション経営、企業の原点にもどる」をテーマに講演会を開催



取手・龍ヶ崎地区支部(支部長 小早川忠氏 キリンビール(株)取手工場長)は、3月10日(月)、キャノン(株)取手事業所において、第2回役員幹事会・講演会・講師を囲む交流懇親会を開催した。

役員幹事会では、25年度支部活動報告および26年度支部事業活動計画(素案)について協議検討した。26年度の支部活

動では、首長の行政施策を拝聴し、より良い地域づくりのために産業界の意見を提案する「行政懇談会」を引き続き開催することを決定した。

講演会では、元・スターバックスコーヒージャパン(株)CEOの岩田松雄氏から「ミッション経営、企業の原点にもどる」をテーマに、リーダーに求められる要点などについて教示いただいた。

岩田氏からは「スターバックスは、拡大路線に走りコーヒーの味も売上も低下していった時期があったが、企業経営の原点に振り返ったことで、現在も

成長し続けている。現在のスターバックスのミッションは、①おいしいコーヒー、②快適な店舗環境、③店舗で働く人の素敵な笑顔、という要素で経営している。また、スターバックスではマニュアルがなく「Just Say Yes!」、すなわち、道徳・法律・倫理に反しない限り、お客様のご要望には最大限お応えするという精神である」など、スターバックスの事例などを取り上げながら、お話をいただいた。

講演会終了後には、岩田氏を囲んでの交流懇親会も行い、参加各社から講師に積極的に質問をするなど、交流を深め散会した。

鹿行地区支部

経営セミナーを開催

鹿行地区支部(支部長 木村和弘氏 日鉄住金鉱化(株)代表取締役社長)は、3月7日(金)、鹿島セントラルホテルにて経営セミナーを開催。今回は昨夏に県西地区支部で開催し、参加者からの評価が高かった、リピーター創出専門コンサルタントの一圓克彦氏を再度お招きし、『『0円』で8割をリピーターにする集客術～すべてのビジネスにリピート客を～』と題してご講演いただいた。43名が参加した。

一圓先生からは、ケースをもとにしながら顧客の心理を解説いただき、実際にリピーター獲得の効果があつた事例等も多数ご紹介いただき、参加者からの評価も大変高かった。参加者アンケートでは「この講演を聞くまでは、売上げを増やすには新規開拓が絶対だと思っていたが、それは過去の手法であり、なぜリピーターを増やすのか?どのようにすればリピーターを獲得できるのか?といった説明もしっか

り聞けたため、大変参考になった。活用の仕方は少し異なるが、まずはリピーター獲得に向けた“習慣をつくる”という部分を実践していきたい」といった感想が寄せられていた。



今、皆さんに伝えたいこと

水戸ヤクルト販売株式会社 代表取締役社長 **内藤 学氏**

震災直後、水戸ヤクルト販売が何をやったかをお話したいと思います。停電して冷蔵庫は止まりましたが、会社には飲むものは山ほどありました。商品にはなりません、3月で寒かったので品質には問題なく、残っていた冷蔵庫にある飲物13万本、被災地、避難所で飲んでいただきました。

茨城工場は古河にあり、そこから9,000ℓの水のタンクローリー車をひたちなか市に16回派遣してもらいました。タンクローリーの横腹には真っ赤な字で“ヤクルト400”と書いてありました。中にはヤクルトがただで飲めるのでは？と並んだ方もおりました。

それからヤクルトレディによる安否確認、地震が起きた直後は皆、出てこなくなりました。ヤクルトレディ700人に私は声をかけました。「出てきてください。出てお客様のところに伺ってください」と、しかし、「社長、何を言っているのですか？我が家も大変なのです」と、「分かっているよ、俺の家も半壊し、大変だったんだ」と、皆さんも大変だったでしょ！だからこそ私はヤクルトレディ1人1人に声をかけて、「出てきてください。そしてお客様のところに伺ってください」と言いました。「何を言っているの

ですか、売るものが無いですよ」と、「売らなくて良いのです、お客様の所に行っただけで何が起きたかを聞いて、無事かどうか確認してください」と、「分かりました」と渋々出てきてくれて、翌週位には全員出てきてもらいました。それで皆、「あなたどうだった？」「あなた、大丈夫だった」と涙の再会で、この安否確認が実現しました。

企業の存在理由は私は社会貢献だと思っております。企業の存在理由は社会の課題を解決し続ける事、これが私の答えです。“会社”と“社会”、ひっくり返すと同じ言葉です、会社と社会は裏表の関係です、冒頭ヤクルトのビデオを見てもらいました。創業者の代田稔が、幼い子供達が感染症で尊い命を失う事から何とか救いたいという想いから作ったのが、先ほど飲んでもらったヤクルトなのです、だからどの企業でも、どの会社でも、社会の課題を解決するために存在する事が会社の目的なのです。単なる金儲けだけの会社



はすぐに潰れます、長続きしません。

ヤクルトが創業以来約80年間、全世界に認められているのはやはり、世の中を、皆さんを健康にしたい、という熱い想いがあったからだと思います。今、日本の社会は少子高齢化で大変な事になっています、毎年社会福祉が1兆円ずつ増えています。もう日本の会計は完全に破綻しています、ヤクルトを飲んでもらう事で、ヤクルトレディがお客様と会話する事で、健康で心健やかになってもらって、そして1日でも長生きしてもらって、そして健康になって医療費を減らす事、私は真剣にこれを取組んでおります。だから皆さんも企業を選ぶ時には、その会社がどういう企業目的で、何を企業ビジョンとしてやっているのか？それをしっかり見てもらいたいなと思います。

県西地区支部 支部長

佐藤計二氏



日立化成株式会社
下館事業所事業所長

新入会員紹介

株式会社新みらい

■代表取締役 小林 伸行



Data 所在地/つくばみらい市絹の台
2-2-3
TEL 0297-34-1088
FAX 0297-34-1087
業 種/総合建設業
従業員/18名

Appeal point

創立以来、社会の基盤を支え暮らしを守る総合建設業の分野において、周辺の地域・企業を牽引して参りました。現在では、国際的な交流・物流の活発化などが期待される、首都圏中央連絡自動車道工事の施工も手懸けております。また、常磐新線沿線の開発にも努めております。

迅速な対応と社会貢献活動を積極的に展開し、地域から信頼され必要とされる企業づくりを通して、魅力ある建設業界を担い続けていくことを目指しております。

鈴木工務店株式会社

■代表取締役 鈴木 輝房



Data 所在地/高萩市高戸380-1
TEL 0293-23-3966
FAX 0293-23-3732
業 種/建設業
従業員/20名

Appeal point

弊社は、1953年創業以来、地域に根付いた、地元の方々に信頼して頂ける会社創りを心がけ企業活動を展開して参りました。

建築部門、土木部門、リフォーム部門、さらに、不動産部門と事業内容を広げ、グループ化した企業創りに取り組んでおります。各部門が連携して対応することによって、お客様のライフプランをトータルにサポートできるシステムを目指して努力しております。

株式会社ナカヤコーポレーション

■代表取締役 小嶋 勝五郎



Data 所在地/筑西市甲915
TEL 0296-22-3157
FAX 0296-25-5681
業 種/不動産業
従業員/5名

Appeal point

弊社は、昭和28年に製菓業として会社を興し、昭和63年まで営んでおりましたがその後業態変動により、現在不動産業を営んでおります。地域密着型で業務を展開しており、不動産仲介、貸店舗、貸事務所など中心に行っております。

これからもお客様からの信頼を基に、地域に根ざした営業を心がけ皆様のお役に立てるよう鋭意努力させていただきます。

株式会社マルタツ

■代表取締役社長 飯田 州良



Data 所在地/龍ヶ崎市白羽4-5-8
TEL 0297-61-0811
FAX 0297-64-6226
業 種/金属製品製造業
従業員/79名

Appeal point

弊社は建設機械部品製造メーカーとして45年の歴史があり、培った技術力により高品質の製品を提供してまいりました。更に10トンを超える製缶構造物の缶・溶接・機械加工・ショット・塗装までの一貫生産が可能な設備を有しております。

技術の伝承と技術力の向上のための教育も会社方針と掲げ、「人材育成」を計り、社会に貢献出来る会社づくりをめざしております。

株式会社水戸日酒販

■代表取締役 久野 隆二



Data 所在地/水戸市堀町1211
TEL 029-254-0111
FAX 029-254-1121
業 種/総合酒類卸売業
従業員/23名(男19 女4)

Appeal point

当社は、1996年2月に日本酒類販売株式会社の100%子会社として発足し、県内全域および栃木、福島、千葉の一部の酒販チャンネルをカバーする酒類・食品の中間流通として、その役割を担って参りました。

これまでの地域密着のきめ細かいサービスに加えて、国内最大級の品揃えを有した酒類食品卸として、地域社会の食文化に貢献出来るよう努めております。

国内・海外の商材と併せて弊社独自企画の商材を、さまざまな業種のお取引様に対して、最適にご提案することが我々の使命であると考えております。

これからも、地域のお取引様や、消費者の方々のニーズにスピーディに対応できる酒類食品流通のプロフェッショナルとして機能強化に努めて参ります。

新入局員の紹介



4月1日に新入局員として入局いたしました、平澤周(ひらさわ しゅう)と申します。大学まで野球をやってきた中で得た忍耐力と若さを武器に、少しでも早く一人前になります。そのために一つ一つの課題を丁寧にかつチャレンジ精神で取り組んでいくとともに、笑顔で人脈を築いていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

『会員増強運動2014』を展開します

1. はじめに.

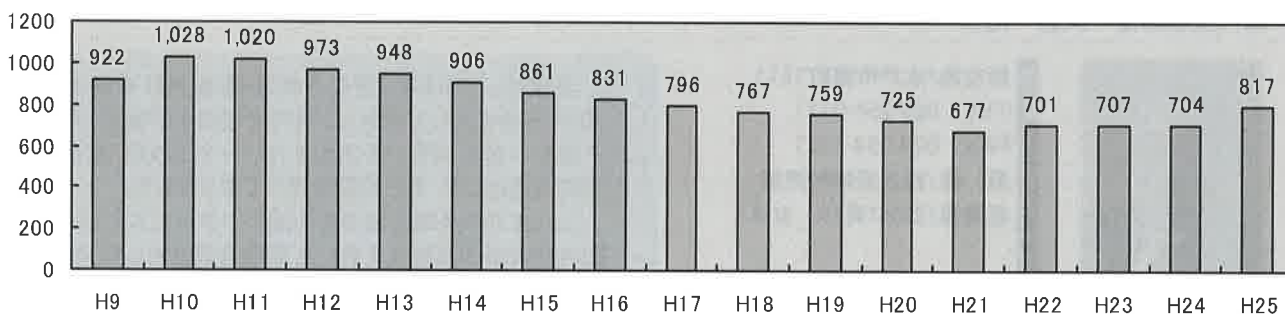
当協会では、会員の皆様の経営者交流・ビジネス交流の拡大、情報の幅・深度を拡げるために会員増強に取り組んでおります。

平成25年度は、本部役員や各支部、各常設委員会を中心に「会員増強運動2013」を展開し、136社の新入会員様をお迎えすることができました。

お陰さまで、会員数も817社(平成25年度末現在)と平成17年度の水準まで回復することができ、支部活動をはじめ当協会の各種事業において参加者も大幅に増え、会員間の様々な交流がこれまで以上に活発に行われるようになりつつあります。

【参考資料】 『会員数の推移』

～平成17年度の水準まで回復～



2. 『会員増強運動2014』について.

平成26年度は、協会の事業運営の指針であります「第7次中期運営要綱」の初年度にあたります。

今後ますます、会員の皆様の相互啓発やビジネス交流の活性化を加速させるために、また「数は力なり」でこれまで以上に行政等に対する政策提言力の強化を図るためにも、平成26年度も引続き『会員増強運動2014』に取り組んでいくことといたしました。

今年度は、本部役員等に限らず、幅広くすべての会員の皆様から、お知り合いなどをご紹介いただき、運動を盛り上げていきたいと考えております。

つきましては、会員の皆様におかれましては、当協会にご入会いただけそうなお知り合いなどがいらっしゃいましたら、1社でも結構ですので、是非お誘いいただき、右ページの「紹介票」にて事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

今年度は女性経営幹部(女性社長のほか女性役員、女性管理職等)の組織化を検討してまいりますので、女性経営幹部がいる企業も積極的にご紹介いただければ幸甚に存じます。

※FAXのほか必要事項をご記載いただければ電子メールでも結構です。

メールアドレス：info@ikk.or.jp

なお、「会員増強運動2014」の進捗状況等につきましては、この「茨城経協」を通じて、毎月会員の皆様へお知らせしてまいります。ご協力のほど重ねてお願い申し上げます。

【会員増強運動2014】 入会见込先 紹介票

茨城県経営者協会 行き

FAX : 029-224-1109

御社名	
役職氏名	
TEL	

“会員増強運動2014”の入会见込先として、下記のとおり紹介します。

【入会见込先の情報】

No.	会社名	電話番号	先方担当者（役職氏名）	連絡方法（○印）
1			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
2			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
3			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
4			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由
5			役職：	直接連絡可
			氏名：	ご紹介者経由

【備考】

--

【数に込められた 思いと意味】

1

— 思い遣りと美しさ —

k2マネジメント代表取締役 葛田 一雄

1. 無駄を省く美しさ

千利休は、戦国時代から安土桃山時代の商人であり、茶人である。千利休は、茶湯(草庵の茶…わび茶)を完成させた。千利休、今井宗久および津田宗及は茶湯の天下三宗匠である。茶湯は、客を招き抹茶を点て、会席の饗応などで持て成す。茶席に生ける花は茶花といい、季節の花を投入れにする。千利休は、茶花を野にあるように活けよ、といったが、これは野にあるままに活けるということではない。野にあるような風趣を表現するということであって、無駄な枝や葉を取り除いて花の姿をして茶室の芯にするということである。

以下は、月次の茶花である。

1月(むつき) 梅 水仙 福寿草 蠟梅 まんさく 柳 雪割草

2月(きさらぎ) つばき 黄梅 庭梅 寒ぼけ こぶし れんぎょう 寒紅梅

3月(やよい) みづき 雪柳 桃 菜の花 こでまり はしばみ くろもじ

4月(うづき) 藤 もくれん しゃくやく みづき おきなぐさ 一人静 山吹

5月(さつき) 都わすれ 敦盛

草 黒百合 花しょうぶ かきつばた あけび 二人静

6月(みなづき) てっせん しゃら がんぴ とらのお むくげ ききょう ゆり

7月(ふづき) なでしこ ねむはす 露草 朝顔 ぎぼし ぐず

8月(はづき) 夕顔 おみなえし 水引草 萩 むくげ 昼顔 なでしこ

9月(ながつき) われもこう すすき ふじばかま りんどう 秋菊 しおん 浜千鳥

10月(かんなづき) 杜鵑 山あざみ 梅もどき つるりんどう 名残り花 菊 照り葉

11月(しもづき) 寒桜 つるもどき 千両 秋まんさく 冬ぼたん 寒菊 冬ぼたん

12月(しわす) 寒ぼたん とさみずき ちゃがら 白玉椿 冬至梅 蠟梅 水仙

寺や茶室には、紙や布に墨で書いた墨跡を掛軸にした軸装が床の間に飾られているが、「和敬静寂」や「喫茶去」はよく見かける掛軸である。茶の湯の根本は、「和敬静寂」にある。「わけいせいじゃく」と読む。和敬は心を和らげてうやまうことをいう。静寂は静かでさびしいことである。わびさびという言葉

がある。侘あるいは詫びを「わび」と読み、思い煩うことや気落ちすることであるが、閑居を楽しむことや閑寂な風趣も侘であり、閑寂なおもむきのことも寂という。

喫茶去は、「きっさこ」と読む。お茶を飲もうよ、お茶でも召し上がれの意に解されている。まずは自然に、なすがままにという意味がある。柳の葉の鮮やかな緑と花の紅い色のことを柳緑花紅という。春の美しい風景のたとえである。物が自然のまま、少しも人工が加えられていないことのたとえでもある。

2. 思いやりと美

神、魂、生、死に共通するのは思いやりと美である。思いやりと美を具現化したものが礼誼作法であり、通常は礼法という。礼誼とはこころのあり方である。作法とはこころの発露としての心得であって言語や動作である。礼法は、社会構造の上下関係としての重疊性を規制してきた形式ではあるが、人が社会生活を営み社会の秩序を保つ思いやりでもある。人は、神前のしきたりとして拝礼する。拝礼の作法は「二拝二拍手一拝」とされている。明治時代の神仏

分離によって、お上が定めた作法であるが、一部の神社では異なっている。出雲大社、宇佐八幡宮、彌彦神社では「四拍手」である。

以下は二拝二拍手一拝の手順である。拝を2度行う。拝とは、直立姿勢から身体を90度折り曲げる礼である。拍手を二度打つ。両手を胸の高さで揃えて合わせ、右手を下方向に指の第一関節ほどずらし、両手を二度打ち合わせる。ずらした右手を再び揃えて祈念を込め最後に両手を下ろす。その後、一拝する。祈願をする時は、二拍手と一拝の間に、声に出し、あるいは心の中で居住地、氏名、願い事を陳べる。

礼儀正しいとは人に対する思いやりがあり、言語や動作が美しいことである。お辞儀の礼は、うなじと背筋を真っ直ぐに、胸を張らないようにする。これは、形式を尊んでいるようではあるが、相手とのこころの途切れがないようにする容かたちであり、身体を動かすための無駄を省くこつである。お辞儀は二挙動である。無駄を省くこつを心得ていないと、屈体のときには頭だけが下がりがちになるし、起こすときには頭だけ置いて身体が上がりがちになる。頭、身体、身体、頭の四挙動になってしまっただけで動きに無駄が出るのは頸椎と腰椎が崩れるからである。うなじと背筋を真っ直ぐにするためには、耳を肩に真っ直ぐ落とすことと、腰眼(第四腰椎)を床に平行にする容が求められる。

3. 数字の意味

一から九までの数は、奇数が陽の数、偶数は陰の数である。

陰気というと性格が快活でないさまをいい、陽気というと気分が明るく楽しいことを意味する。易学では、陰と陽を天地の二元気という。陽は天、男、君、日、昼、動、剛、奇数などである。積極的、能動的な事物の性格を表す。陽に対して、陰は地、女、月、静、柔、偶数など消極的、受動的な事物の性質を表す。

阿吽あうんは呼気と吸気のことであるが、最初と最後あるいは万物の初めと終わりのことでもある。阿は口を開いて発する音声で字音の初め、吽は口を閉じる時の音声で字音の終わり。阿吽の呼吸は、共に一つのことをする相互の微妙な調子や気持ちのことをいい、それが一致することである。密教では、阿を万物の根源、吽を一切が帰結する智徳としている。

三・五・七はめでたい数字のなかでも祝儀に用いる数である。

三はさん、みつ、みっつと読む。三州の意味があり、駿府すんぷ、遠州えんしゅうおよび三河の国のことである。三角は三つの角であるが、正月の屠蘇袋の異称でもある。三の糸のことも三といい、三味線の第3の糸であり、3つの弦のうち最も細く、高い音域に対応したものである。

五は、ご、いつつ、いつと読み、和のしきたりの中では重みがある。五体ごたい、五行ごぎょう、五節句がそうだ。五体は、身体を構成する5つの部分である筋・脈・肉・骨・毛皮であるが、頭・両手・両足の5つをいうこともあるし、頭・頸・胸・手・足のこともいう。五行は中国古来の哲理であり、天地の間に循環流行して停滞や休息を

しないものをいう。木・火・土・金・水の5つの元気をいう。五節句とは節日である五つの式日である。人日は一月七日、上巳じんじつは三月三日、端午たんごは五月五日、七夕しちせきは七月七日、重陽ちゅうようは九月九日である。陽の一番大きな数である九を重ねることから重陽という。

七は、しち、なな、ななつと読む。大字では「漆」と書く。大字は、漢字の一、二、三などの代わりに使う。壹、弍、参、肆、伍、陸、漆、捌、玖、拾が大字の1から10に当たる。七曜は日と月に火、水、木、金、土の五星を合わせた名称である。七五調は主に韻文に用いる音数律の一である。五七五は俳句、五七五七七は短歌である。北斗七星は7つが並んで斗状ひしやくをなしている北天の大熊座にある七つの星である。

七五三は、祝儀に用いる数である。一、三、五、七、九の奇数をめでたいとして、その中の三つを取ったものである。男子は3歳と5歳、女子は3歳と7歳とに当たる年の11月15日に氏神に参詣する行事である。

冠婚には祝儀袋、葬祭には不祝儀袋が付き物である。祝儀袋あるいは不祝儀袋と対になるものが水引である。水引は、結び切りが本義であり、結び切りのこま結びが正しい。略した結びが蝶結びである。蝶結びは、蝶に転じる毛虫ではなく絹になる蚕の蛾である。水引の本数は四本から九本である。五本、七本、九本は吉事、四本、六本、八本は凶事とされている。

NPO情報

NPO information

Vol.162

ONPOフォーラムから生まれた セクター間の連携

生協、茨城新聞、コモنزの共催で15年前に始まった茨城NPOフォーラムは、形を変えて発展してきました。最初は、講演とNPOの事例紹介でしたが、徐々に参加型になりテーマ毎の分科会で話す形になりました。共催団体も、大好きいばらき県民会議、連合茨城、生協パルシステム茨城が加わり、2009年には、フォーラム実行委員会の関係団体で、「地域のパートナーシップを拓くSRネット茨城」という緩やかなネットワークができました。このプラットフォームができたことで、年1回フォーラムを行うだけでなく、必要に応じてメンバーの提案をもとに協働事業を検討、実践しやすくなりました。その結果、安全なのに消費に回せない食品や野菜を福祉に役立てるためのフードバンクが、企業、生協、NPOの協力によってできました。また東日本大震災の際にも、メール会議だけで北茨城やいわき市への緊急物資支援を行うことができました。

○地域円卓会議の進化

中央でも、2009年に社会的責任円卓会議がスタートしました。従来型の政府主導の審議会とは異なり、事業者団体、労

地域連携で課題解決する仕組みづくり

～円卓会議からフューチャーセンターへ

茨城NPOセンター・コモنز 常務理事 横田 能洋

働団体、消費者、金融、NPO、政府がそれぞれ委員を選出して協議したいことを協議し、合意したことを共に実践するという仕組みです。このマルチステークホルダー方式の課題解決と地域円卓会議のモデルをつくるべく、2011年2月にSRネット茨城は全国初の地域円卓会議を開催し3つのテーマについて協議しました。一つ目の「遊休農地活用や6次産業化」については、農と福祉を重ねた園芸療法、植物油の利活用など、徐々に具体化しています。2つ目の「地域貢献を進めるための資金循環」は、「いばらき未来基金」が寄付募集を助成を行っています。3つ目の「買い物・外出支援」も生協による移動販売、イベント時の歩行サポート(タウンモビリティ)として具体化しています。

○フューチャーセンターで生まれた数々の協働プロジェクト

SRネット茨城は、多様なセクターの人が対話し協働を探る地域円卓会議を普及することを重視し、2011年度から2年間、新しい公共フォーラムという形で、円卓会議を体験する企画を行いました。そして今年度は、さらに形を発展させて、フューチャーセンターとして開催しました。フューチャーセンターとは、北欧で生まれた仕組みで日本でも企業のビジョンづくりで活用されつつあります。私達は、組織を越えて、多様なステークホルダーが集まり、未来志向で

対話し、関係性をつくる場であり、そこで創発されたアイデアをもとに協働事業を起こしていくプロセスと位置付けています。誰でも議論に参加できる点が円卓会議と異なり、実践を前提に継続して話す点が、フォーラムと異なります。

3月23日に水戸市のトモス水戸(このビルの空きスペースの活用自体も検討テーマになっています)では、多様なセクターの方、約60名が集って5つのテーマで協議しました。心の病をもつひとが提案した居場所づくりでは映画上映会の企画が検討され、子どもの貧困の連鎖を防ぐための学習支援では、場の提供に協力いただける不動産会社と大学生が中心になり民間による児童館を構想しました。生協、農家、就労支援NPOが集まったグループでは遊休農地で園芸療法をしながら就労機会をつくる方策が検討され、エネルギー循環では水戸市の小学生が始めた家庭配食油の回収活動を地域に広げる方策が議論されました。また途上国の人々の自立を支援するための商品販売(フェアトレード)を茨城に広げるためのグローバルフェスタを5月11日にトモス水戸で開催する検討も行われました。これらは、継続して議論し実践につなげていきます。ぜひ、関心あるプロジェクトにご参加いただければと思います。

詳しくはコモنزのWEBまで(www.npocommons.org)

セミナー・事業等のご案内

＝詳細は、事務局までお問合せください＝

セミナー名	日 時	テーマ	講 師	会 場
サービス業 セミナー	① 6月3日(火) ② 6月12日(木) 10:00～16:00 全講 14,000円 単講 8,000円	①信頼関係を生むおもてなしマインド ②おもてなしマインドに基づく行動の実践	(株)ヒューマン・ブレ ンディ代表取締役 田寺尚子氏	フェリバー ルサンシャ イン
マナーアップ &クレーム対 応セミナー	7月9日(水) 9:30～16:30	状況に応じたビジネスマ ナーを、実践しながら学ぶ ・第一印象をよくするために ・挨拶とその重要性 ・言葉遣い ・電話対応 ・来客対応/訪問のマナー ・クレーム対応	(株)EMMY 代表取締役 渡辺満枝氏	茨城県 産業会館
第5回マネジ メント力向上 研修	① 7月11日(金) ② 7月17日(木) ③ 7月24日(木) 10:00～17:00 全講 20,000円 単講 8,000円	職場の活力を生み出す“人 への接し方”を学ぶ ①人間関係をよくするた めの基本心得 ②人の問題の処理の仕方の 応用 ③部下指導のスキル・コー チングとリーダーシップ	日本産業訓練協会 研修部長 府川亮一氏	ホテル レイクビュー 水戸
第13期 マネジメント マスター コース	① 7月15日(火) ② 8月4日(月) ③ 9月19日(金) ④ 10月9日(木) 13:30～17:00 全講 32,000円	アイエスエフネットグル ープに学び、自社に活かす ①素晴らしい経営の実現 ②アイエスエフネットグル ープの素晴らしさを探る ③アイエスエフネットグ ループの現地視察 ④アイエスエフネットグ ループからの学びを自社 に活かすワークショップ	①人と経営研究所 所長 大久保寛司氏 ②(株)ヤマオコーポレー ション代表取締役 鬼澤慎人氏 ③コーディネーター 鬼澤慎人氏 ④NPO法人日本ファミ リテーション協会前会長 徳田太郎氏	水戸プラザ ホテル
経理セミナー (基礎編)	11月7日(金) 9:00～16:30 8,000円	わかりやすい！ 経理の基礎講座	木村税理会計事務所 所長 木村聡子氏	水戸京成 ホテル
経理セミナー (応用編)	11月20日(木) 9:00～16:30 8,000円	簡単にわかる！ 決算書の見方・読み方	財務リスク研究所(株) 代表取締役 横山悟一氏	水戸京成 ホテル

問合せ 一般社団法人 茨城県経営者協会
〒310-0801 水戸市桜川2丁目2番35号 茨城県産業会館11階
TEL 029-221-5301 FAX 029-224-1109
ホームページ <http://www.ikk.or.jp> Eメール info@ikk.or.jp

平成26年度の健康保険料率は据え置かれませんが 介護保険料率が変わります

厳しい経済状況の折ですが、皆様の医療・健康・生活を支えるため、このようなご負担につきまして、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

	現行	平成26年3月分(4月納付分)から
健康 保険料率	9.93%	据え置き
介護 保険料率	1.55%	1.72%

● 40歳から64歳までの方（介護保険第2号被保険者）は、健康保険料率に介護保険料率が加わります。

協会けんぽの
健診で

生活習慣病の芽を
がんの芽を

早期発見!

詳しくは4月に届く「健診案内」をご覧ください!



全国健康保険協会 茨城支部
協会けんぽ

【お問い合わせ】

☎ 029-303-1500 (代表)

協会けんぽ 茨城

検索

〒310-8502 水戸市南町 3-4-57 水戸セントラルビル

地域のために 未来のために

筑波銀行は、より充実した金融サービスのために。

そして、もっと豊かな日々の暮らしのために。

地域エリアの皆様とともに、

未来に向かって力強く前進いたします。



筑波銀行は地域復興支援プロジェクト「あゆみ」に取り組んでいます。



<http://www.tsukubabank.co.jp>

筑波銀行
Tsukuba Bank

心と心のつながりで価値・創造・提案企業を目指します

機械・工具・伝動・管材

OSC 小川産業株式会社

<http://www.osc-web.co.jp/>

【OSショップ】YAHOO店・楽天市場店

■本社 北茨城市機原町本町3-1-8 ■つくば出張所 つくば市北条4679-1
0293-42-1200 029-850-7500



【安心】の東栄グループ 機械・資材・工具・溶接機械

東栄機工株式会社

<http://www.toueikikou.co.jp/>

本社 〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-18

TEL (0299)96-6023(代) FAX (0299)96-5630

ひたちなか営業所 〒312-0004 茨城県ひたちなか市長砂字塙123-2

TEL (029)219-5577(代) FAX (029)219-5588

東栄グループ

工業用ファスナー・ボルト

産業機械レンタル・修理

プロスパー洗洋株式会社 リペア・カサハラ株式会社

<http://www.neji-pros.jp/>

〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-19

〒314-0116 茨城県神栖市奥野谷6129-16

TEL (0299)94-3366 FAX (0299)94-3666

TEL (0299)97-1050 FAX (0299)97-2776



心を込めて、信頼できるカーライフ

茨城トヨタ

SAI HYBRID SYNERGY DRIVE

サイ



茨城トヨタ自動車株式会社

水戸市千波町1887 〒310-0851

TEL 0120-090110

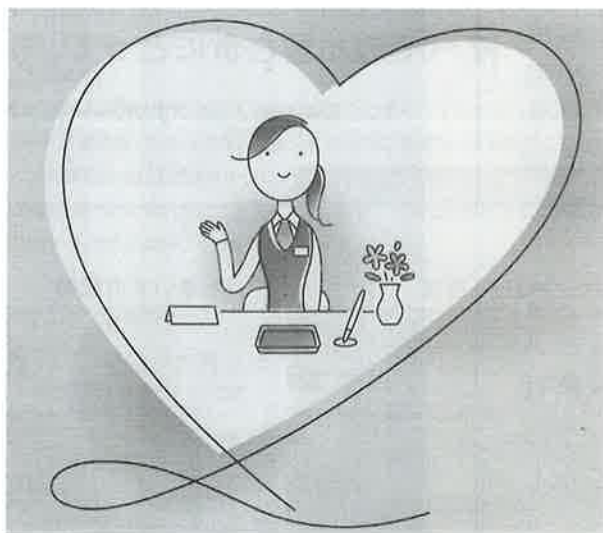
<http://www.nakama-online.jp/>

Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ



TOYOTA

人に優しい銀行をめざして



常陽銀行はどなたでも
ご利用しやすい銀行を
めざしています。

ベストパートナーバンク



平成26年度定時総会開催のご案内

【平成26年度定時総会】

平成26年6月5日（木）

13:30～16:20 総会・記念講演

16:30～18:00 交流パーティー

※受付は12:45から始めます。

ホテルレイクビュー水戸 2階
(水戸市宮町1-6-1)

記念講演 (15:10～16:20)

講師 筑波大学大学院

教授 松崎一葉氏 (医学博士)

テーマ 「今、経営者に求められる心」

【松崎一葉 講師プロフィール】

筑波大学大学院社会医学系教授。1989年、筑波大学大学院博士課程修了。医学博士。産業精神医学、宇宙航空精神医学の分野で国内の第1人者。産業領域での精神保健システムの構築、宇宙長期滞在中のストレス評価・管理システムの構築と実運用を主研究テーマとしている。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)客員研究員、宇宙飛行士健康診査専門委員会委員、国際宇宙ステーション科学実験国際評価委員、日本産業衛生学会評議員、日本思春期学会常務理事、茨城労働局地方労災医員等、多数の公職についている。

著書には「職場のメンタルヘルス相談」「管理監督者のための職場のメンタルヘルスQ&A第3版」「心と社会産業精神保健学と宇宙飛行士の精神健康管理」「会社で心を病むということ」「社員がうつにならないためには、どうしたらよいか?」「情けの力」など多数。

ご案内状は後日お送り申し上げます。